

令和元年度 第4回 とみやわくわく市民会議 実施報告書



富谷市総務部市民協働課

テ　　マ	とみやの農業について ～市民交流と地産地消～		
日　　時	令和元年12月21日（土）午前9時30分～午前11時30分		
場　　所	富谷市まちづくり産業交流プラザ（TOMI+）		
座　　長	宮城大学 事業構想学群 准教授 佐々木 秀之		
参　加　者	一般参加	10名	
	宮城大学学生	2名	
	富谷市	8名（市長、副市長、農林振興課2名、市民協働課4名）	
	傍聴者	7名	

実施状況

時間	内容	状況写真	
9:30～ 10:00	<p>村インテ-ション</p> <p>①自己紹介</p> <p>②施設見学</p>		
10:00～ 11:30	<p>会議</p> <p>①市長あいさつ</p> <p>②情報提供 （農林振興課）</p> <p>③スライド上映</p> <p>④意見交換 （グループワーク）</p> <p>⑤副市長感想</p>		
			
			

市長あいさつ

おはようございます。本日は、令和元年度第4回とみやわくわく市民会議に、休日のなか皆さんにご参加をいただきましたこと、まずは心から御礼を申し上げたいと思います。今回は「とみやの農業について～市民交流と地産地消～」というテーマで開催させていただきました。

もともと富谷は明治22年に14の地域がひとつになって、国の町村制の実施によって富谷村が始まり、ちょうど今年130年目という節目を迎えました。もちろん当時は、一次産業が主の富谷村でした。それが、年々歴史とともに宅地開発などが進んできて、今は一次産業が占める割合が少なくなってきました。また、農業を取り巻く環境そのものが厳しい状況のなかで、これは全国的な課題ですが、富谷においても休耕田が出てきているという状況です。富谷の場合は、都市近郊という地域性を活かし、農地というのは、単純に食を生産するというだけでなく、環境を守っていくという大きな役割を担っていただいているので、その農地を大切に維持、活用していくというのが富谷の未来を考えても重要だと認識しております。

ここ最近では、「スイーツのまち=とみや」というのを掲げさせていただいています。なぜ掲げたかという、スイーツは個人業から大きな産業にも発展するという事です。そしてなによりも、そのスイーツの素材となる一次産業の活性化につなげ、その一次産業の活性化に休耕田等を活用していただければということで推奨しています。作物として、シャインマスカットやいちじく、ぼろたん栗などを推奨作物として推進をさせていただいております。

また、ちょうど来年開宿400年を迎えますが、もともと富谷は奥州街道の宿場町で、仙台藩祖正宗公が宇治から取り寄せた奥州宇治茶と言われたそのお茶が、富谷ではお茶処として生産されてきました。その茶畑も残っていたので、それをもう一回復活させようということで、「富谷茶復活プロジェクト」にも取り組んでいるところでございます。そのような意味では、新たな取組はさせていただいているのですが、まだまだそれが実践につながっていないところもありますので、ぜひ今日はお集まりいただいたそれぞれのお立場で、富谷の地域性を活かしたなかで「とみやの農業について」というのを皆さんにご意見をいただきたいと思っております。それをこれからの施策に取り入れさせていただいて、富谷の一次産業の活性化、そのことが富谷の緑、環境を守ることにもつながると思っておりますので、今日はどうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

今日もこの会議に、本当にお忙しい中いつも座長をお務めいただいております、宮城大学の佐々木先生、どうぞよろしくお願ひします。また、今日も宮城大学からアシスタントとして佐藤さんと澁谷さんにお手伝いいただきますこと、心より感謝申し上げます。

なお、とみやわくわく市民会議はいつも私も最後まで参加させていただいて、皆さんのお話を聞かせていただいているのですが、今日はどうしても公務の関係上、途中で席を外させていただきますこと、まずはお詫びとご理解いただきますことをお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひします。

私からは、富谷の農業振興の各種事業の取組につきまして、ご紹介させていただきます。

一つ目は、「とみや地産地消推進事業」についてです。この事業につきましては、富谷の地の利を活かし、生産から販売まで一体的に推進する「都市型農業」の振興を目的とした事業で、参加申込みをいただいた園芸農業者等の皆さんを対象に、野菜づくりなどの各種講習会や直売所の先進地の視察研修会の開催、また、学校給食の食材として地場産野菜の出荷やイベントでの直売会などにも参加いただいております。地場産の農作物等の地産地消を進めているところです。また、「産直・直売等定着推進事業」につきましては、ただいま申しあげました「とみや地産地消推進事業」参加の有志の方々により、「おんないん会」と称した組織を発足いただき、現在、市内生産者20名により、3箇所のスーパーでインショップにより直売を行っているものです。

二つ目の「ブルーベリー産地拡大事業」ですが、富谷の特産品として定着しているブルーベリーの栽培面積の拡大を図る支援として、ブルーベリーの新たな植栽などへの苗木等の購入の助成や一般市民ボランティアにより「ブルーベリーサポーターズ」を結成し、収穫作業の手伝いなどをいただきながら産地拡大を目指しております。

三つ目は、「特産品定着推進事業」です。記載の振興作物のとおりですが、「シャインマスカット」などの4品目につきまして、スイーツを核とした「スイーツのまち」づくりを進めており、ブルーベリーに次ぐスイーツの原料となる新果樹等の生産と定着化を進めているところです。また、「富谷茶」につきましては、来年迎える「富谷宿開宿400年」という節目の年を契機とし、旧藩政時代、日本でも富谷は有数のお茶の産地であったという歴史的史実を強みとし、富谷茶を市の特産品として復活させ、新たな農業者と商工業者との連携を図りながら、飲料水やスイーツの原料など、商品化を目指して取り組んでいるところです。なお、具体的な取組としましては、現在、富谷茶の在来種の苗木、2千本の育成を業者に委託しているところで、今後の計画としましては、来年から5年間で1万本という飲料水等の商品化に必要とされる本数の栽培に向け、取り組んでいくものです。

四つ目の「とみやはちみつプロジェクト事業」ですが、平成28年度に新たな特産品の可能性を探る実証実験からスタートしまして、翌年の事業開始から今年で4年目となる事業です。今年もはちみつの収量については240kgと年々増えている状況です。また、蜜蜂につきましては、環境指標生物とも言われ、蜜蜂の生育する地域については、人も住みやすい環境と言われております。蜜蜂を通して緑豊かな自然と都市が調和した住みよい環境を市民と一緒に守り続けていく活動に取り組みながら、はちみつがスイーツの原料や新たな特産品となるよう取り組んでいるところです。

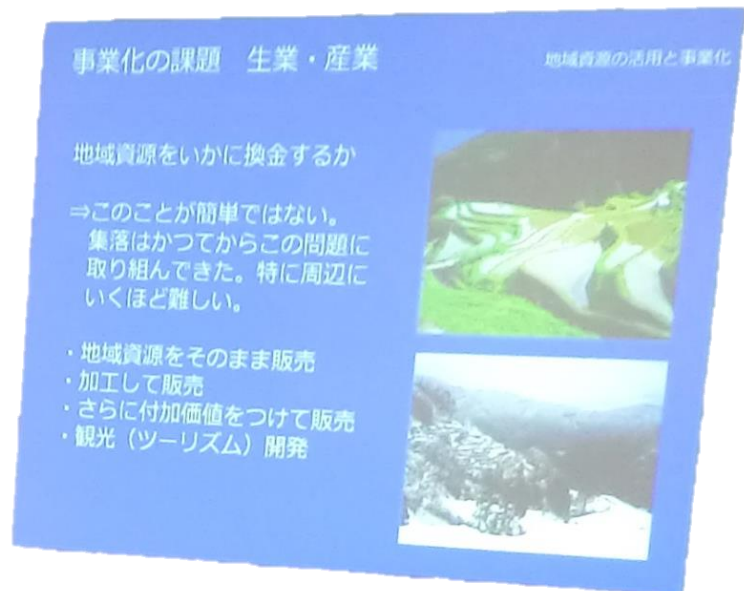
五つ目の「レクリエーション農園事業」ですが、農園につきましては、サラリーマン等の都市住民の方が、自家用の野菜の栽培などを目的に、小さな面積の農地を利用して、野菜や花を育てるための農園がレクリエーション農園とされており、本市では稲作の米の生産調整による休耕田等の農地の有効活用として農家の方が開園しているものです。現在30箇所の農園があり、241名の方に利用いただいている状況です。

以上が、農業振興事業として本市が取り組んでいる主な事業です。しかしながら、農業を取り巻く環境におきましては、生産者の高齢化や後継者、担い手不足という問題なども生じてきております。

このような状況ではありますが、本市では、地の利を生かした地産地消の取組など、まだまだ伸びしろがあると思っております。つきましては、この機会に、皆さんから今後の農業振興へのアイデアなどをいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

スライド上映（座長） ～スライドに基づき説明～

今、六次産業化ということが出てきて、今日もこの話が少し出るかと思っておりますので、それに至る流れを、大正の頃から、宮沢賢治氏の話を見せていただきたいと思います。右の写真は、いわゆる葉っぱビジネスとされている高知県の写真なのですが、いかに地域資源を換金するかということはずっと考えてきたのです。それを、販売するのか、加工して販売するのか、あるいはさらに付加価値を付けて販売するのか、最



近では、色々なものを繋ぎ合わせて観光にして販売していくのかということ、今、全国の皆さんが一生懸命悩んでいるところになります。非常に悩んだ事例として、全国に色々な人がいるのですが、宮沢賢治氏の事例を私の大学では紹介しています。もちろん小説家のイメージが強いのですが、実は宮沢賢治氏は実業家でお亡くなりになるまで、いかに東北の農業を豊かにするかということに頑張ってきた。彼が生きた時代は、明治29年の大津波のときに生まれ、昭和8年の大津波のときに亡くなりました。その間、農業恐慌もあり、いかに農業を再生させるかということで、最初は高校の先生をやり農民学校をつくったということで、今、その建物が残っているのですが、高校の先生を辞めるときに宮沢賢治氏は、新聞にこのような記事を載せています。「宮沢賢治氏を訪ねると、現在の農村は確かに経済的にも行き詰っているように考えられます。そこで、少し東京と仙台の大学あたりで、自分の不足であった農村経済について研究したいと思っている。」ということ、宮沢賢治氏が言っていて、これは今も同じ課題かと思えます。このような学校を宮沢賢治氏はつくって、一緒に勉強していましたが、それだけでは食べていけないので、今これは再生されているものですが、花壇を作る仕事をして食い繋いでいたということになります。最後、これでお亡くなりになってしまうのですが、宮沢賢治氏は石が好きで、タンカルという肥料を作るということになるのですが、宮沢賢治氏はずっと何をやってきたかということ、土壌改良です。今回も、環境を守るということ、市長からもお話がありました農業ということでポイントとなって、忘れてはいけないのが土をいかに守るということと考えております。

話が飛びますけれども、六次産業化という言葉がどのように出てくるかということ、大分県大山町に

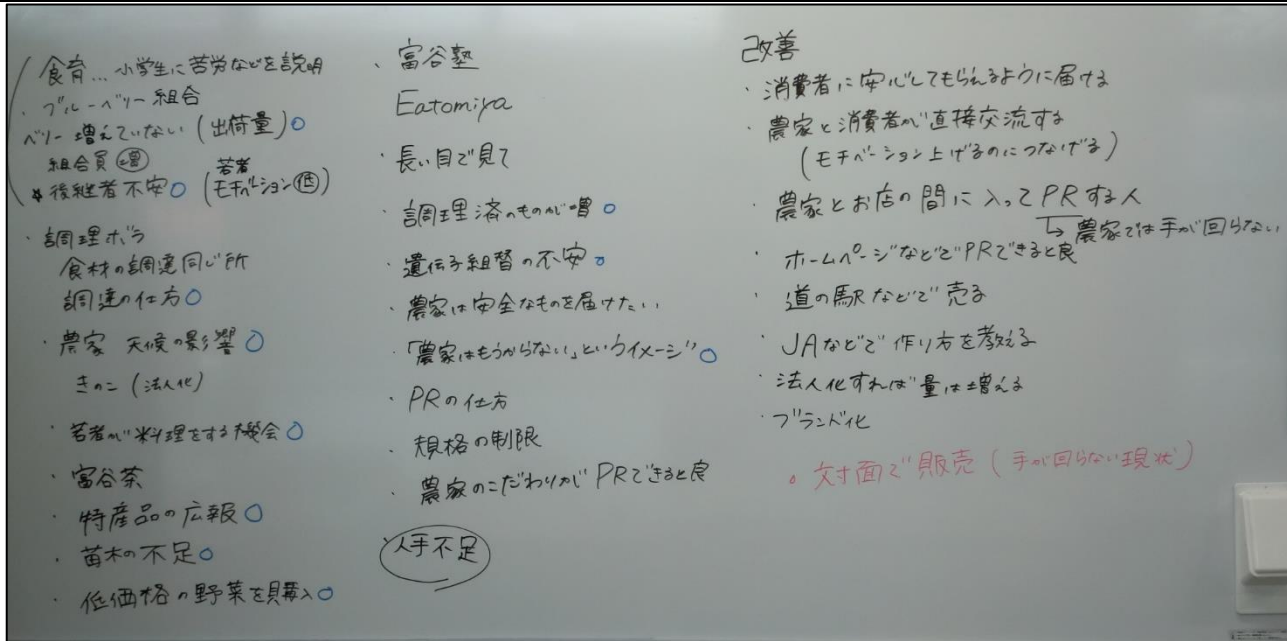
農協があります。これは、皆さんも聞いたことがあるかと思いますが、ここでやっていることが最初は1.5次と言われていたのですけれども、段々と1+2+3や、1×2×3ということで、六次産業化という言葉になりました。ここで先ほど「おんないん会」のお話もありましたけれども、言っていることは一緒です。土をきちんと守って、そこで作った作物を直売して、地域のお母さんたちが販売をするということで、一つモデルになりました。さらに富谷でもやっています、農園を設けました。そしてこれは、全国に言葉は広がっていったということになっています。ただ、大山町の農協はもちろんすごいのですが、富谷も他の地域も、実はこのようなことは展開されているということになります。

そして最後、六次産業化というものが出てくるのですが、これは東日本大震災で進みました。その理由は、六次産業化というのは大分県の実践を見て、国の施策に入れていこうということで1990年から実は始まっていました。法律は作ると時間がかかるので、その法律ができたのが、2011年3月1日だったのです。そしてその10日後に東日本大震災がありまして、ちょうど法律ができていると予算もあるので、それで東日本大震災の復興関係では、我々は六次産業化ということを非常に耳にしていたということになります。

私自身も震災の過程では石巻市で六次産業化のセンターをつくりまして、そこで漁業者の皆さんとこのように、トマトも1個売れば50円ですけれども、加工するといくらになるみたいなことを話しました。言うのは簡単ですが、実際やるのは大変です。そのような取組をして、最近では学生の授業ではこれは石巻なので漁村の事例ですけれども、いかに「ヒト」や「モノ」をつなげて「コト」を作ったり、観光につなげていったり、特に富谷は若い学生もいますので、若い人たちと一緒に何ができるか、そんなことを今考えているということの紹介でした。



意見交換（参加者） ～グループワーク～



A チーム

☆ PR力と対面販売

<現在の活動>

- ・ 農家をしている。
- ・ ブルーベリーを生産している。
- ・ 調理ボランティアで活動している。

<課題>

- ・ 農業を始めたばかりの若者のモチベーションが低いことが、農業の担い手不足につながっている。
- ・ 農家は天候の影響がすごく大きい。
- ・ ブルーベリー生産組合の組合員は増加しているが、ブルーベリーの出荷量が増えていない。
- ・ ブルーベリー以外の特産品のことあまり広く知られていない。広報があまり出来ていない。
- ・ 調理ボランティアで、新しいところから食材を調達する方法が分からない。
- ・ 若者が料理をする機会が少ない。
- ・ 産地や中身を見ないで、低価格の野菜ばかり買っている。
- ・ 農家は売る能力が足りないが、ホームページを作る時間や機会がない。

<アイデア等>

- ・ 市やJAに生産者の思いやストーリーも併せて、広報をしてほしい。
- ・ PRするホームページやプロフィールを作って、直売所にQRコードを貼る。
- ・ 対面販売をして、農家自身が能動的にPRする場を作る。

＊ ＊ A チームの発表 ＊ ＊

結局のところ、農家さんは安全なものを届けたい。こだわって作っているところをPRしたいのです。消費者の方も、遺伝子組替の問題とか色々な問題がある中で、安心安全なものを食べたいということで、どうしたら良いのかという、やはりPR力です。私はずっと営業をやってきて、売ることに关してすごく勉強してきたという経験もあったので、農家さんというのは売る能力が足りないということ、私が農業を始めて実感したところです。だからといって、ホームページを作る時間もなく、なかなかそのような機会がないので、市やJAなどで、そのようなホームページやプロフィールを作って、直売所にQRコードを貼っておくだけでも良いと思います。そこで字に書けないくらいの思いやストーリーがたくさんあると思うので、それをすごく大事にしたほうが良いのではないかと思います。

例えば今、メルカリの農業バージョンのフリーマーケットのような「ポケットマルシェ」で、野菜をインターネットで売れるようなものがあり、そこに全部、こういうこだわりを持って作りましたなどが書けるのです。「食べる通信」というのもあり、冊子と野菜がセットでいくらという販売をしており、冊子に全部ストーリーが書いてあって、そのこだわった野菜と一緒にセットで届くようなシステムが出ているくらいです。そうやってPRすることが大事なのではないかなということで、手短なところで動けるのは対面販売です。例えば、富谷の直売所のインショップの前とかで販売するような機会を作って、農家自身が能動的にPRする場を作っていけるのが、市民交流という意味では入り口として一番良いというところでまとまりました。

<佐々木先生>

「食べる通信」は、色々な漁業の産品などを取材して届けるという会員制の取組です。そしてそれが派生した「ポケットマルシェ」は、アプリを使って販売する先進事例です。いかにPRするかということと、逆に来すぎてしまい量がとれないなど、そのようなバランスも見ながら、場合によってはこのTOMI+の2階にはビジネスの皆さんや、ウェブ系の皆さんもいるので、富谷の中で連携すると、何か新しい発想が得られるのではないかと思います。ただ、ターゲットをどこかに絞らないと、最近道の駅をつくったのはいいけれども、ものが確保できないという課題も抱えておりますので、何かひとつ富谷らしい営業モデルみたいなものが、またこういう機会ですらめくと思います。



今どんなことしてる?

○ 田んぼ、さくらんぼ

佐藤錦 ナポレオン

ブルーベリー・大豆

36~7年前から取組

ジャム、ジュース etc.

ブルーベリー = とみや

ブロックローテーション

大豆 ← 稲

豆はみそに

○ 宮城の気候

・ 梅雨・秋雨(長)

・ 平均10℃

(But) 温暖化...

ぶどう → 種なし皮ごと
8~10月

○ 農家の現状

→ 高齢化、ハウス使えない

○ 流通経路 → 顔が見える安心さ

国際交流に絡める ... 今までの豆に比べ!

○ 台湾の豆腐みたいな2in1x とみやの農産物・お酒

→ オンリーワンとみやを作る

今は東京にしかない

・ 次は台湾と農業で交流

・ 若者が SNS で発信

→ 地産地消、農業推進人が来る、1次産業の見え易化

消費者: おいしいの食べた! つくりたい!
生産者のお話が聞きたい!

今後: 似たものをどう加工する?
SNS を用いた PR (若者の使命)

B チーム

☆ 生産者・加工者・消費者の循環

<現在の活動>

- ・ 米、さくらんぼ、ブルーベリー、大豆、ぶどうなどを生産している。さくらんぼは、佐藤錦やナポレオンという品種を育てている。ブルーベリーは、36~7年前から岩手大学などで取組をして、ジャムやジュースなどの品物を出し、「ブルーベリー=富谷」という式が出ているくらい有名である。大豆は、ブロックローテーションをやっており、田んぼで大豆を育てているので、大豆と稲を3年周期で育てているので、肥料がいらないというメリットがある。

<課題>

- ・ 宮城県の気候としては梅雨や秋雨が長い。
- ・ 今まで平均気温が10℃だったが、温暖化の影響で少しずつ育たなくなってきた。
- ・ 農家の現状は高齢化。ハウスはたくさんあるが、高齢化により人がいないため使用しておらず、ぼろぼろになっていく。

<アイデア等>

- ・ 流通経路は、顔が見える安心が必要。
- ・ 国際交流に絡める。例えば、台湾の豆腐のようなスイーツと、富谷のブルーベリーやシャインマスカットなどの農産物を組み合わせて「オンリーワンとみや」を作る。
- ・ 中国で流行っているスイーツのお茶漬けみたいのものに応用できないか。
- ・ 農家が大豆を作り、加工して豆花(トウファ)を作り、SNSをやっている世代が先陣を切ってPRする。生産者と加工者と消費者という循環ができるのではないか。

**** Bチームの発表 ****

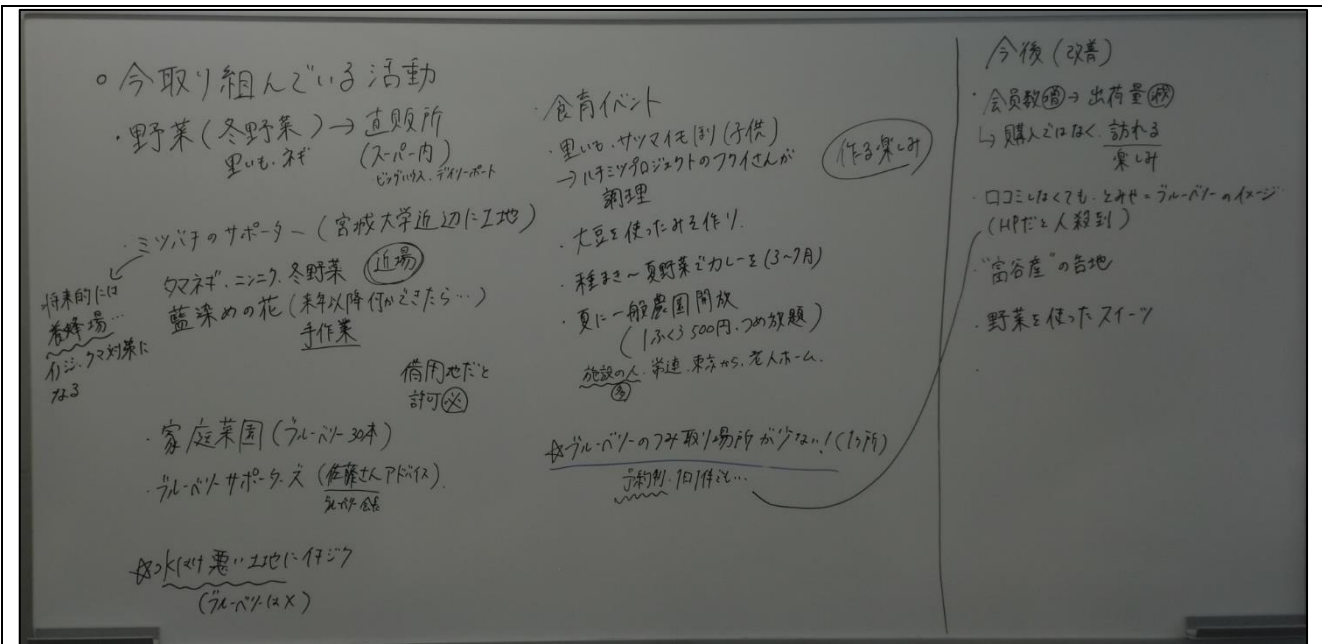
Bチームでは、ブルーベリーやさくらんぼや大豆を作っている方と、国際交流でアジア圏と交流があるという方がいらっしゃいました。豆花（トウファ）という、豆腐を使った台湾のスイーツや、中国だとガラスの中にフルーツをたくさん入れて、そこに紅茶やジャスミン茶など、自分の好きなお茶をかけて、スイーツのお茶漬けみたいのものが流行っているらしく、そのようなものに応用できないかと思いました。

例えば、農家さんに大豆を作ってもらって、それをもらって加工して豆花（トウファ）を作り、このような場に持ってきていただき、市の皆さんや参加者の皆さんで試食をする。そして、SNSをやっている世代の大学生がたくさんいますけれど、例えば大学生がSNSにあげると、今の大学生や高校生は未知の食べ物にすごく敏感で、何でも食べに行きます。それを、自分たちが先陣を切って、自分の友達や大学のの人にPRすることで消費につなげ、若者が大豆に興味を持って、もしかしたら農業にも興味を持ち、生産者と加工者と消費者という循環ができるのではないかと思います。中国のスイーツのお茶漬けのようなものも、富谷茶やスイーツ、ブルーベリーなど富谷のものを使って、海外のスイーツを真似して国際交流もしつつ、若者に広げるということ、このグループの三人でできるのではないかと考えています。このような小さいコミュニティですが、そこから広げていければと思いました。

<佐々木先生>

ニーズとしてひとつペルソナということで、ものをつくるときにターゲットを絞ってマーケティングし、地域ブランドを作っていくのですが、若い世代に絞ってやっているとまた少し違う視点が出て、富谷の農業のプロと国際交流と若手。その辺で良い議論ができるのではないかとと思いました。





Cチーム

☆情報発信と野菜を使ったスイーツ作り

<現在の活動>

- ・今の時期は、冬野菜を作ってそれをビックハウスやデイリーポートなどのスーパーで売っている。
- ・家庭菜園で、ブルーベリーを30本育てている。
- ・夏に一般農園の開放を行っている。
- ・大豆を使った味噌作りをしている。子どもを対象にして、掘った里芋とサツマイモをはちみつプロジェクトの方が調理し、食べるという食育イベントを行っている。3月に種まきを行い、夏野菜を育て、それを使ってカレーを作るイベントを行っている。

<課題>

- ・野菜などの、富谷産というブランドをどうやって告知していけばいいか。
- ・ブルーベリーの摘み取り場所が少ない。(現在一箇所)

<アイデア等>

- ・一日一件でもいいので、予約制でブルーベリーの摘み取り場所を増やすと良い。
- ・ブルーベリーを、インターネットを通して購入するのではなく、実際に摘み取る楽しさや、訪れる楽しさを伝えていければ良い。
- ・「富谷=ブルーベリー」のイメージがあるため、口コミをしなくても人が集まると思う。ホームページだと人が殺到しすぎてしまい、逆に摘み取れるブルーベリーが少なくなる可能性がある。
- ・富谷は、ブルーベリーやはちみつを使ったスイーツがあるので、野菜を使ったスイーツをもっと作っていったら良い。

**** Cチームの発表 ****

Cチームでは、今後どうしていけば良いかという課題の改善策を考えました。まず、ブルーベリーの摘み取り場所が少ないという意見に対して、ブルーベリーを、インターネットなどを通して購入するのではなく、実際に摘み取る楽しみや、訪れる楽しみをもっと伝えていければという意見が出ました。あとは、それにつながるのですが、「富谷=ブルーベリー」のイメージがあるので、口コミをしなくても人が集まるのではないかとということで、ホームページだと人が殺到しすぎてしまい、逆に摘み取れるブルーベリーというのが少なくなってしまうのではないかと意見も出ました。あとは、野菜ですが、富谷産というブランドをどうやって告知していけばいいかという課題も出ました。富谷はブルーベリーやはちみつを使ったスイーツがあるので、野菜を使ったスイーツをもっと作っていったらいいのではないかと意見も出ました。

<佐々木先生>

地域ブランディングの分野に入ってきました。今日聞いて、食育イベントが結構多くあったので、まず富谷の若い世代がこういうことを知るというのも非常に重要ではないかと思いました。



座長まとめ

課題としては多くあるのですが、多様な世代が取り組める、一緒にやっていきたいということがひとつ共通するのではないかと思います。今日とはみやわくわく市民会議という会議ですが、若い世代の方にも来ていただいていたと思います。何かこの世代も一緒にやりたいというものが皆さんにとっても無理なくやれることなのではないかと思います。

副市長感想

皆さん大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。皆さんから色々な良いお話を聞かせていただきました。我々行政は、あまり生産することや買うこと、売ることはしません。そんな中で、皆さんの応援をすることはできます。

今日は色々なお話をいただきました。一つ思って聞いていたのは、消費者は安い農産物ばかり買っているという話がありました。確かにそんな一面もあると思います。私は震災直後2年半、中国に駐在していました。今から中国の悪いところをお話するのですが、別に私は中国が嫌いなわけではないのでそこは勘違いしないで聞いてください。私は大連市というところにいたのですが、人口は600万人くらいでものすごい大都会なのです。そういう大都会でも、道一本入ると路上で市場があります。そのようなところで新鮮な野菜を買います。ところが、農薬まみれです。日本から農薬を落とす洗剤みたいなものを買って洗うのですが、日本では水が白くなるようなことはありません。中国では、ものすごく白くなります。その時に、食はすごく大事だと思いました。今はどうか分かりませんが、実はそういうことがあるのです。

安全で安心なものを食べるというのは、すごく大事なことです。日本の農産物は安全だと思うのですが、富谷の生産者が作ったものが安全で安心なものだということが、実は消費者に届いていないと思います。そして、どこで売っているかも消費者は実はよく分からない。消費者も安心なものを買いたいけれど、分からないから安いものを買う。そういう循環になっているのではないかと思います。

今日、皆さんから色々なご意見をいただきました。決して消費者も安いものだけを買いたいとは思ってなくて、安全で安心なものを食べたい。生産者も色々な思いがあって、皆さんに安全で安心なものを届けたい。そういう思いで生産いただいている。それで、加工して販売する人も、安全で安心なものを売りたい。そんな思いが実はあるのだと非常に分かりました。そういった方々を、我々行政も一緒に応援して、富谷と一緒に良くできたらと思います。行政だけでは何もできないという力不足で申し訳ないのですが、このような皆さんと一緒にものを考えて、何かできたらいいと思うような話し合いができたかと思います。本当に色々な意見をいただいたので、これはぜひ市でも共有させていただいて、どんなことができるか真剣に考えたいと思います。こういった会を大事に、これからも続けていきたいと思いますので、色々な方に引き続きご参加をいただければと思いますので、これからもよろしくお願いたします。今日は本当にありがとうございました。